

■ネパール連邦民主共和国ってどんな国？

【概要】(資料：日本外務省ホームページより引用)

1. 人口 2,649万人(2011年、人口調査)
2. 首都 カトマンズ
3. 言語 ネパール語
4. 宗教 ヒンドゥー教徒(81.3%)、仏教徒(9.0%)、イスラム教徒(4.4%)他
5. 識字率 65.9%(2011年、国勢調査)
6. 政体 連邦民主共和制
7. 経済概況 GDP 約221.41億ドル(2013/2014年度)、一人当たりGDP約703ドルの後発開発途上国(LLDC)。経済構造はGDPの約34%及び就労人口の約66%を農業に依存。各国政府・国際機関より多額の開発援助を受けている。

インドと中国に囲まれ、ヒマラヤ山脈沿いの内陸国です

世界最高峰エベレスト(ネパール名サガルマタ)



■ミランクラブジャパンってどんな団体？

ミランクラブジャパンは、アジア貧困国ネパールの経済的に恵まれない女子の就学支援を続ける特定非営利活動法人です。主な事業として、「就学困難な女子教育支援」と「教育環境整備」を実施しています。

前者は、日本で会費等を集め、孤児・母子家庭・極端な貧困家庭等の女子に奨学金を支給しています。後者は、同じく日本で集めた会費等を、首都カトマンズ郊外のダルマスタリ村にある学園村等の運営費としています。

その他、各種国際協力フェスタに参加したり、ネパールへの里子訪問を企画したりする等、文化交流事業も実施しています。

会員及びボランティアは随時募集していますので、お気軽にお問い合わせください。(連絡先は表面にあります。)

■どんなボランティアを募集しているの？

ミランクラブが首都カトマンズ郊外のダルマスタリ村に整備した学校、職業研修センターにおいて、先生等をしていただきます。いずれも通年に渡って募集しています。関心をお持ちの方は、お気軽にお問い合わせください。(連絡先は表面にあります。)

(1) 学校での先生ボランティア募集職種

幼稚園から高校生までの児童・生徒を対象とした先生ボランティア。教える学年・教科は、学校側との相談の上で決定します。

- ①英語・数学・理科・コンピューター・音楽・美術・体育等の授業
- ②授業以外で、寄宿舎の生徒を対象とした補習
- ③折り紙・歌・楽器・絵画等
- ④遊具の修理等教育環境の改善
- ⑤図書館の司書業務
- ⑥その他



学校

(2) 職業研修センターでの先生ボランティア募集職種

近隣の住民を対象とする職業訓練の先生ボランティア。教える内容は職業研修センター側との相談の上で決定します。

- ①コンピューター
- ②ミシン
- ③その他、成人を対象とした職業訓練



職業研修センター

<応募の条件>

1. 授業を実施する場合は、英語で幼・小・中・高の生徒に教えられること。
2. ネパールの人々と積極的に交流ができ、先生として情熱を持って活動できること。
3. 期間は数週間から1年ぐらまでとします。現地の学校と相談して決定します。
4. ダルマスタリ学校の校長先生・先生方の指示に従うこと。
5. 自分の教えられる教科と担当したい学年はあらかじめ要望を聞き、現地の校長先生と相談の上、決定します。
6. 学校滞在中は学校付属の寄宿舎に宿泊します。宿泊費・食事代として1日600円負担していただきます。また、寄宿舎の規則に従っていただきます。
7. ネパールまでの往復の交通費・ネパール国内での交通費・食事代・空港利用料・ビザ代等の旅行代金は本人の負担となります。
8. 3カ月以上滞在中の場合は、在ネパール日本大使館に「在留届」を提出すること。
9. ネパール滞在中の怪我・病気は自己責任となりますので、必ず海外旅行保険等に加入すること。
10. ボランティア終了後には、報告書をダルマスタリ学校とミランクラブジャパンに一カ月以内に提出すること。
11. 派遣中に言動・行動に大きな問題が認められた場合には、派遣途中においても中断を命じ帰国していただく場合があります。その際の帰国費用等は本人の負担となります。
12. ボランティアに派遣が決定したら、ミランクラブジャパンの賛助会員または会員になっていただきます。

体験報告

私はネパールの学校で音楽教師をしてきました。人生での海外経験はハワイへ2泊3日の旅行のみ。そんな私がなぜアジア貧困国と呼ばれるネパールへ行こうと思ったのでしょうか。理由はいくつもありません。私は、自分のことを好きになりたかったのです。

不便だからこそ助け合えるネパールで、私は人間らしい感受性を取り戻したように思います。そして、世界が平和であるために、政治家でも何者でもない一般市民の私たちが絆を深める事が重要であると考えました。

ネパールでは学校の寄宿舎で学生や先生方と共に生活させていただきました。学校以外でもその国の人と過ごさせてもらうことによって、本やテレビでは知り得ないリアルを体験させていただきました。

音楽を習った事がないネパールの学生に、楽譜の読み方から教えました。帰国する頃には、ピアノを和音で弾けるまでになりました。また私が帰国してからも音楽が鳴り止まぬよう、校歌を作りました。

心が病める日本人、何かしたいけど、私なんかにはできるだろうか、と遠慮されている方。何にも心配はいりません。気持ちさえあれば、あとは全てあとからついてきます。心のままに、はじめの一步を踏み出してみませんか？



齋藤友貴 (音楽教師)
2014年4月～9月派遣